

ごみの自然界流出問題解決に向けた

事業のご紹介

株式会社 ピリカ

2026.03.16



Pirika

科学技術の力で あらゆる環境問題を 克服する

株式会社ピリカは科学技術の力で
あらゆる環境問題を克服することを目指す会社です。
多様な環境問題の中でも、私たちはまず一歩目として、
ごみの自然界流出問題に取り組んでいます。





Pirika

社名	株式会社ピリカ ピリカ=アイヌ語の「きれい」に由来
設立	2011年11月21日
代表	小嶋 不二夫（代表取締役）
所在地	東京都千代田区九段北1-4-7-802
事業内容	ごみ拾いSNSピリカの開発・運営 ごみ分布調査サービスの提供 ごみのリサイクル 環境問題解決のための調査・研究

2025年3月 経済産業省のスタートアップ
支援プログラム「J-Startup」に選出





代表取締役

小嶋 不二夫 Kojima Fujio

7歳の時に読んだ本の影響で環境問題の解決を志す。
大阪府大で環境工学、京大院でエネルギー経済を専攻。
大学院時代に世界を一周し、ごみの自然界流出問題に着目。
帰国後にごみ拾いSNS ピリカの開発を開始。
2011年に京大を中退し、会社を設立。

環境スタートアップ大賞 環境大臣賞 受賞
MIT Innovators Under 35 Japan受賞

ごみ（特にプラスチック）の自然界への流出が無視できない規模に

世界規模で人口と豊さが増加し、製品使用に伴うごみの流出量が指数関数的に増加し、無視できない規模に毎年、約820万トンのプラ廃棄物が管理できておらず、その一部が自然界に流出していると見られている※

※2022年プラスチック汚染条約の議論開始において参考データとして活用されたOECDのデータを参照



海岸に打ち上がった大量のごみ（ガーナで撮影）



水路に不法投棄されたごみ（埼玉県で撮影）

ごみの流出による悪影響は、生態系・産業など広範囲にわたる

生態系や産業に対しては既に実害が発生。プラスチック摂取による人体への影響も懸念されているが、結論は出ていない（実験動物の癌化などは確認済み、他の有害物質と比べて有意にリスクが大きいかは未確定）。

生態系への影響

プラスチック製の容器、袋、網などを誤飲したり、体に絡まるなどして、最悪の場合、死に至るケースも。
（渡り鳥の死骸と、その胃から検出されたプラスチック）



人体への影響

プラスチックに付着する化学物質が人体に悪影響を及ぼす可能性が指摘されている。（特に直径5mm未満のマイクロプラスチックは人体に取り込まれる懸念が大きい）



産業への影響

海洋生物への影響による海産物の漁獲量の減少・品質低下、船舶の航行の阻害などにつながるだけでなく、関連する観光業への影響も懸念されている。



気候変動への影響

プラスチックは日光や水による劣化で温室効果ガスを排出。海中ではサンゴの生育に悪影響を及ぼす等、二酸化炭素濃度増加に繋がる可能性が示唆されている。



2040年までに 自然界に流出するごみの量と 回収されるごみの量を逆転させる

我々はごみの自然界流出問題に対し

- **計測**：流出・回収されるごみの量や種類を定量的に把握する
- **対策**：ごみの流出量を削減し、回収量を増加させる

という解決に不可欠な2領域に貢献する事業やサービスを生み出し世界中に普及させることで、問題の解決を目指す。



ごみの流出問題のあらゆるポイントを 一気通貫で解決



Pirika



Takanome



Consulting



Recycle

回収

調査

流出抑止

資源化

ごみ拾い促進
プラットフォーム

ピリカ

ごみ分布
調査サービス

タカノメ

ごみの流出抑止

コンサルティング

ごみの資源化

リサイクル

国内外で認められる取り組みに



環境スタートアップ大賞
環境大臣賞
(2021)



Appleの
AppStoreで特集
(2022)



日経ソーシャルビジネス
コンテスト 大賞
(2023)



Google Play の
#WeArePlay で特集
(2024)

その他、Eco Summit 2013 金賞、掃除大賞2016「社会貢献賞」、掃除大賞2018「環境大臣賞」、Orange Impact Challenge優勝、Rise Up Festa最優秀賞、環境スタートアップ大賞「環境大臣賞」、Amazing STARTUPS 選出、Industry Co-Creation (ICC) サミット KYOTO 2022デザイン & イノベーション アワード グランプリ、ソーシャルグッド・カタパルト 2位、Google Play ベスト オブ 2022 アプリ 社会貢献部門 大賞受賞、Deep Tech Venture of the Year 2024、SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞「環境の部」受賞 など多数

ごみ拾い促進プラットフォーム

ピリカ



Pirika



ごみ拾いを楽しく、続けやすく！
世界最大のごみ拾いSNS

SNSピリカを活用した、清掃活動「見える化」サービス

ごみ拾い促進プラットフォーム「ピリカ」は、ごみ拾い活動を記録・共有することで行動を「見える化」し、その取り組みを社会へと広げ、活性化していくためのプラットフォームです。



135 以上の
国と地域で利用



300 万人の
のべ参加者数



4.4 億個の
ごみを回収



個別の清掃活動を集約し、見える化。活動の活性化を支援

自治体版

地域清掃活動の見える化・活性化の支援や
不法投棄通報のためのサービスを提供。

主な導入先：[岡山県](#)、[東京都北区](#)、[網走市](#)、[茨城県](#) 他多数

企業・団体版

企業・団体の清掃活動が見える化。組織内タイムラインで
メンバー間のコミュニケーションや社会活動活性化にも活用可能。

主な導入先：[サッポロホールディングス](#)、[Rethink PROJECT by JT](#) 他多数



見える化ページ

ごみ分布調査サービス

タカノメ



Takanome



ごみの分布を見える化！
効果的な対策の効果検証・立案に

画像解析技術を活用した、ごみの分布状況可視化サービス

スマートフォンで道路を撮影し、画像解析することで、ポイ捨てごみや不法投棄の分布調査を行うサービスです。ポイ捨て・不法投棄ごみの実態把握や、データを活用したごみの流出抑止に貢献しています。

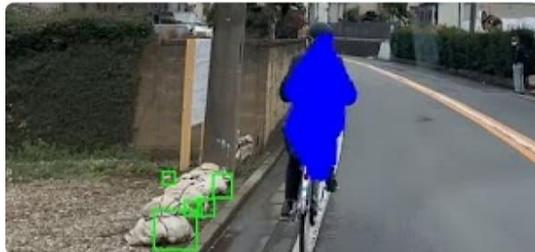
調査

スマートフォンで路上を撮影



解析

画像解析によりごみを検知



データ活用

ごみの分布状況を可視化



調査データをもとに、実態に即した効率的かつ効果的な対策立案へ

タカノメ自動車版：広域調査

車とAIの活用により、これまで不可能だった広範囲のごみ分布調査が可能に。さらに、官民連携で不法投棄パトロール制度の構築・運用も実現できます。

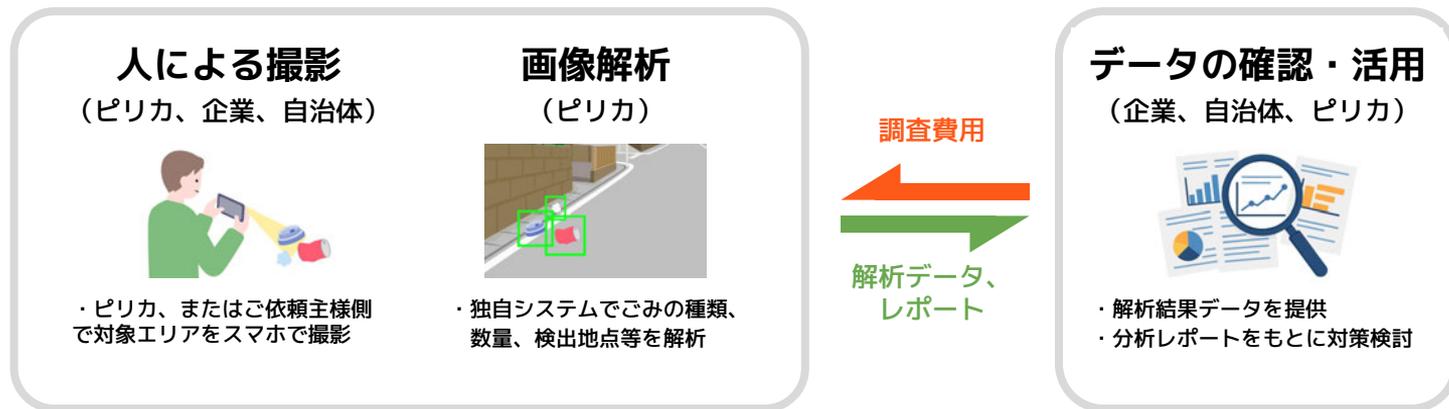


国内実績：廃棄物・物流・交通業界を中心に企業や自治体で採用され、100台以上の車両に調査端末を搭載。

海外実績：JICAや三井物産と連携し、ベトナム、アメリカ、ペルーなど5カ国で自主調査を実施。
オープンソースのストリートビュー画像を活用した世界規模のごみ分布調査網構築も進めている。

タカノメ徒歩版：詳細調査

車の通れない狭い道や歩道などを対象としたエリアでの調査が可能です。環境重点区域の定点観測、散乱ごみ対策の効果検証などに活用されています。

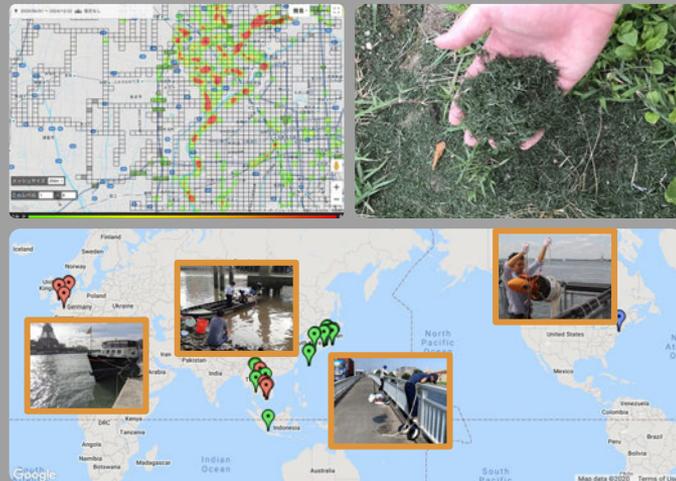


実績：渋谷区 路上散乱ごみ調査、富士吉田市 ごみ箱設置前後でのごみ散乱状況比較調査、江戸川区 小岩駅周辺喫煙所設置前後での ごみの散乱状況比較調査

ごみの流出抑止
コンサルティング



Consulting



ごみの流出実態調査
流出抑止のための対策立案等

ごみ・環境分野の入札に積極参加。IT活用、現地調査など幅広く対応

自治体から公募されるごみ・環境分野の入札案件にもピリカは積極参加しています。ITを活用した事業のコスト削減・効率化のほか、現地調査を含む多様な業務形態の案件まで幅広く対応しています。

例：河川ごみの流出実態調査事業

調査地選定

タカノメータ(路上ごみ分布データ)を用いて、対象となる河川近辺の街中における散乱ごみの密度が高い地点を特定。

実態調査

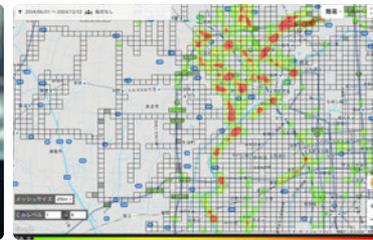
選定した調査地点において、プラスチックごみ等の流出実態調査を実施。

分析

各地点におけるごみの量・種類と地理的条件や河川の状況等から、発生源を分析

対策

発生源に応じた効果的な流出防止対策について検討し、具体的な手法を提案



実績：熊本県河川ごみ調査、鳥羽市海岸漂着ごみ流出実態調査、大阪府ビーズの流出状況等に係る調査及び啓発ツール等作成業務、磐田市人工芝流出対策調査、山梨県河川マイクロプラスチック調査、農水省プラスチックを使用した被覆肥料の実態調査、浜松市議会議院鳴湖におけるプラスチックごみ調査業務他多数

MPs対策として、実態把握～対策立案・課題解決まで提供

1. マイクロプラスチック流出の実態把握・影響範囲調査

各品目（人工芝、被覆肥料、発泡ビーズ等）ごとに、流出の発生状況や環境への影響範囲を現地調査やヒアリングで把握



2. 流出対策技術の導入と効果検証

排水溝フィルター、農地での流出防止ネット、収集車でのビーズ流出抑制策などを実装し、捕捉量や削減効果を計測



3. 運用ガイドラインや啓発資料の作成

自治体・農業法人・廃棄物処理事業者・スポーツ施設など関係者ごとに、日常的な運用ルールや啓発資料を作成

ごみの資源化
リサイクル



Recycle



ごみを資源として活用
原料・製品にリサイクル

リサイクル困難物（特にパイ捨て・漂着ごみ）に新しい出口を作る

パイ捨て・漂着ごみを再資源化できる仕組み作り → 回収量増加

- パイ捨てごみや海岸漂着ごみなど、これまでリサイクルが困難だったプラスチックごみを回収・再資源化できる仕組みを作る
- ごみを原料として買い取り、回収費用を負担できる仕組みを構築



パイ捨て・漂着ごみ由来の製品を製造 → 問題への意識向上

- ごみで作られた製品を通じて、ごみ問題に興味を持ちづらかった方々にも、問題や取り組みに興味を持ってもらう
- ベンチ、買い物かごなどを製造（公園、コンビニ等に設置）



日本財団、一般社団法人日本先端科学技術教育人材研究開発機構（JASTO）、株式会社リハネスが共同実施する「プロジェクト・イッカク」の一環で技術を開発することができました

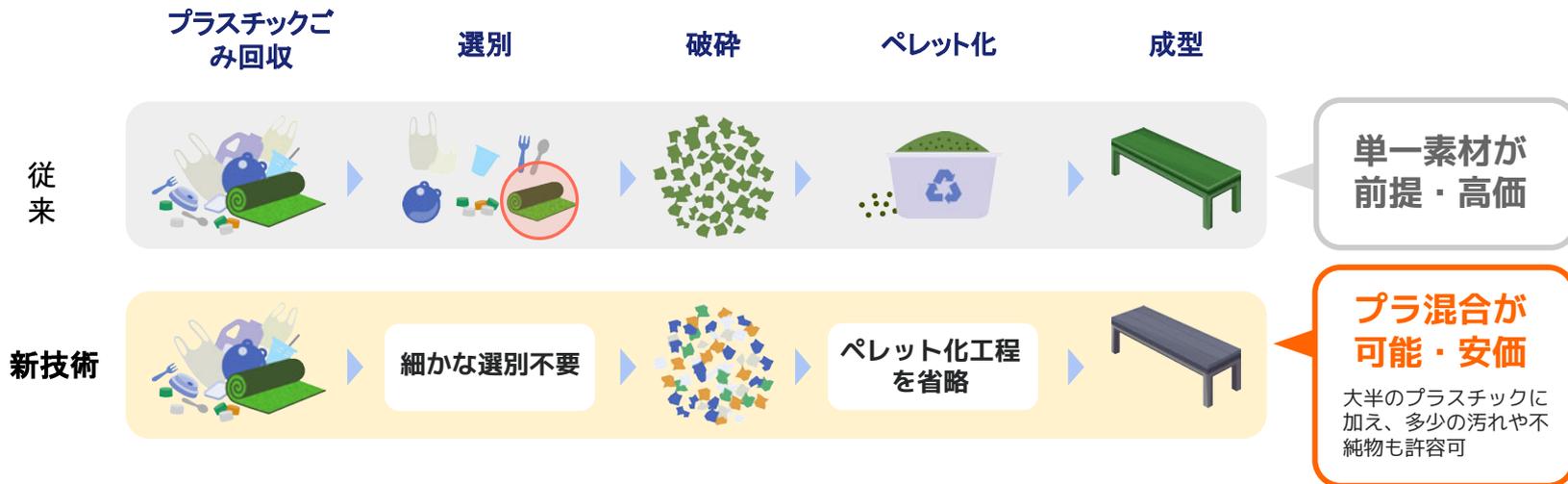


JASTO
一般社団法人日本先端科学技術教育人材研究開発機構



リサイクル困難だった雑多なプラスチックごみが再資源化可能に

複数のプラスチックの種類が混在し、汚れが付着しているためリサイクルが困難だったポイ捨てのようなごみから、板材を製造する技術を実証。

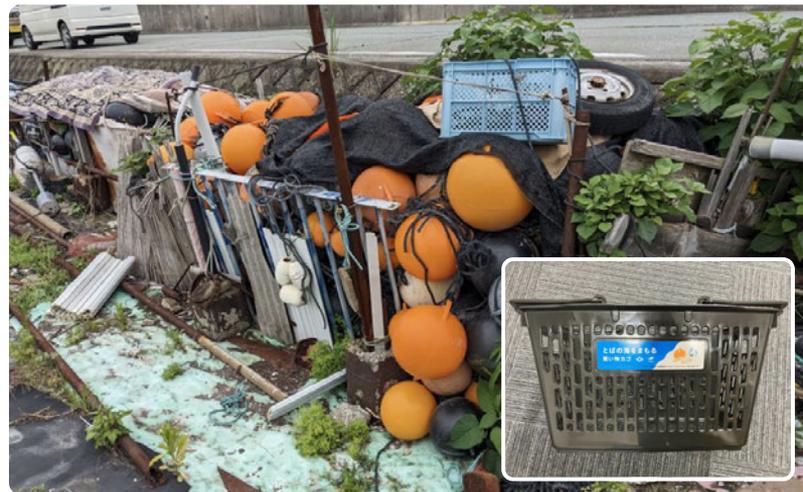


ごみの地産地消を実現、企業版ふるさと納税制度の活用事例も



人工芝 → マーカーコーン、ベンチ

一般社団法人F・マリノススポーツクラブ、
横須賀市と連携



漁具・海岸漂着ごみ → 買い物かご

鳥羽市、鳥羽磯部漁業協同組合、
22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会と連携

新規事業



New business



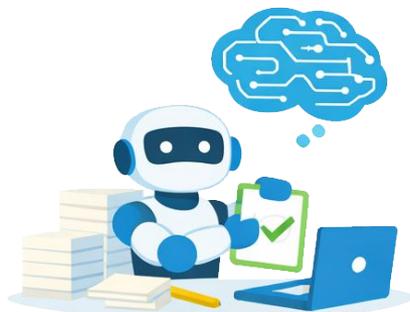
ごみ・環境分野における
新たな事業創出

ピリカではごみ・環境分野の新規技術・事業を常の開発しています

ごみ回収ロボット



環境行政効率化AI



環境技術・ 事業開発支援



お問い合わせ



二次元コードまたは下記のURLより
お気軽にお問い合わせください。

<https://corp.pirika.org/contact/>

